

外科実習を終えての感想

弘前大学医学部医学科 5年 平川 葉月

2021.10.4~2021.10.29 の 4 週間、外科で実習させていただきました、平川葉月と申します。私は田舎館村出身でして八甲田山を越えて南部地方を訪れたことも少なく、また 1 ヶ月も地元から離れるのは初めてだったので、当初は不安でいっぱいでした。ですが、外科の先生方をはじめ、三沢病院の方々が和気あいあいとお仕事されている中で実習させていただいたので、あまり寂しさを感じることなく 1 ヶ月を過ごすことができました。特に、歳の近い女性の板矢先生と外科ローテ中の研修医長岡先生がいたのは、とても安心感がありました。



私が外科実習先に三沢病院を選んだ理由は、腹腔鏡下虫垂切除/胆嚢摘出術などのベーシックな手術をたくさん見ることができることと、学生が埋没縫合などの見学以外で参加する場面が多いと伺ったからでした。実際に、ベッドサイドではドレーン抜去や抜鉤、術場では腹腔鏡手術のカメラ持ちや閉腹の際に糸結びやステイプラー、埋没縫合をさせていただく機会がありました。その際には、先生方がスムーズに処置できるようにサポートしてくださったり、技術面でのアドバイスをしてくださったりと、先生方の配慮があってなんとか行うことができました。

私が実習した期間は虫垂炎や胆嚢結石/胆嚢炎、ヘルニアの症例が多かったです。同じ疾患の処置を繰り返し見学することができたので、治療の流れを把握し、退院までの中で観察すべきポイントを学ぶことができ良かったです。そのため先ほど述べた手技も何度も挑戦できました。また三沢病院の外科は主に消化器外科ですが、気胸の症例を見学する機会もありました。

三沢病院で印象的だったのは、ダビンチを使った手術が外科、泌尿器科、産婦人科で行われていたことです。失礼ながら、こちらに来るまでは三沢病院の規模や近くに八戸市があることから、大学病院での実習で見たような難易度の高い症例は見ることはないだろうと思っていました。ですがダビンチの手術は毎週あり、膵臓の手術も見学でき、腫瘍に対する治療が進んでいることも知り、三沢病院の守備範囲は広いのだと驚きました。また、三沢病院の医局は総合医局ですが、カンファレンス以外のときも医局の中で先生方が診療科の壁を越えて患者さんの治療を熱心に議論されている様子をたびたび拝見したのも印象深いです。自分が患者や患者家族の立場で、先生方のその様子を知ったらとてもうれしいだろうなと思いました。

最後になりましたが、1 か月間大変お世話になりました。時間が過ぎるのをあっという間に感じるほど充実した日々を過ごすことができました。

外科の松本先生、池永先生、久保先生、板矢先生、研修医の長岡先生、担当患者さん、管理課の工藤さん、他三沢病院の全ての方々に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

実習期間：2021.10.4~2021.10.29